

編集 後記

本号は、9月16日の新政権発足後に発行される最初の雑誌となります。

本号の2本の原著論文は、いずれも高齢者の豊かな地域生活に寄与しうる学術的研究であり、2本の資料も、地域の現状に根ざした貴重な知見を紹介しています。これらは、いずれも、世界一の少子高齢社会としての課題を抱えるわが国の国民の健康に結びつく研究です。

2006年、ヨーロッパ公衆衛生学会にてヘルスサービスリサーチのワークショップに参加しました。その際、Policy maker と Researcher の役割における重要な違いは、Policy maker は、実現しうる現実的な政策をタイミングよく打ち出すことが求められる一方、Researcher は、考える時間をかけ、妥当性のある真実を追究することが重要であるとの事でした。その主催者であったオランダの Netherlands Institute for Health Services Research では、政策が十分な評価のないまま時として先に進まなければならない場合にも、所属する100人余の研究者が長期的な視点に立った研究を続け、お互いに一定の距離をおきつつ継続的連携をとり、相互補完しているということでした。

今、この政治変革の時期にあり、改めて、基本的人権として憲法25条に規定された生存権を守る公衆衛生学の役割を思います。現場の視点と真実を求める科学性を持つ本学会誌も更なる発展が期待されるところではないでしょうか。そして、その要は、公衆衛生第一線を担う方々から研究者という幅広い会員の皆様の積極的参加です。激動の今、政局に左右されない大局的な公衆衛生学の発信源として、人々の真の健康に寄与しうる本誌のますますの発展を祈念し、編集後記とさせていただきます。

(田宮菜奈子)

次号予告 (第56巻・第11号)

原 著

- 身体活動ならびに知的活動の増加が高齢者の認知機能に及ぼす影響
東京都杉並区における在宅高齢者を対象とした認知症予防教室を通じて……………谷口 優, 他
- 住民の歯の健康づくり得点向上のための歯科衛生士訪問およびリーフレット郵送による介入研究……………榊原康人, 他
- 妊産婦の QOL と親族サポートの関連性……………野原真理, 他

短 報

- 週の歩数を予測するためには何日間の歩数調査が必要か?……………久保田晃生, 他

連 載

- 運動・身体活動と公衆衛生(19)……………内藤義彦
- わが国の結核対策の現状と課題(12)……………森 亨
- 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望(3)……………安齋由貴子